



第24号

# 開 鐘

KE - JOU

沖縄県立芸術大学広報誌

OIST 開学 10 周年記念事業

## CYCLE 展

～創造するエネルギー2021～

第5回 沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科展 at OIST



会期：2021年10月29日(土)～11月26日(土)  
会場：OISTトンネルギャラリー

これまで開催してきました本学と OIST の共催による CYCLE 展は5回目を迎え、OIST 開学 10 周年記念事業の一環として開催されました。

今回は大学院生 23 名、博士課程の学生 3 名、計 26 名が参加しました。

また、コロナ感染予防対策として関係者のみでの参加及び観覧となりましたが、展示会場と併せて Web でも展示会を行い、多くの方々に観ていただく事ができました。

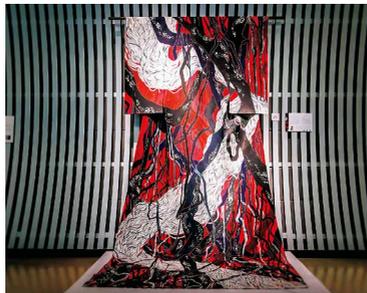


優秀賞



槌谷 玲於  
「退化II」

最優秀賞



根路銘 まり  
「神生み」

優良賞



佐藤 ゆり  
「せわしく過ぎる日」



創作舞踊 『風直り（一名おなりのセチ）』

令和3年度をもってご退任された琉球芸能専攻・高嶺久枝教授からのメッセージをご紹介します。本学での教育や研究などの取り組みや思い出、そして退官後の展望について語っていただきました。



於：静岡県掛川花鳥園

## 聖地首里城に端を発す歴史と文化を学びつなぐ心と技 琉球芸能専攻 教授 高嶺 久枝

2022年三線の日、御開門の銅鑼の音を聞きつつ研究室から首里城正殿跡を眺めていました。

そして、この場所にあった琉球大学に通った日々、首里城の復元、本学音楽学部創設2年目から3年間勤めた非常勤講師、2019年10月31日未明の首里城焼失事や琉球・沖縄の歴史に思いを馳せていました。消失した首里城は、300年前の1719年に冊封した第13代国王尚敬の居城を復元したものとわれています。

2019年は音楽学部創設30周年、筆者の芸道50周年等、周年行事が重なる記念すべき年でした。11月16日を皮切りに県内5カ所にて開催する「組踊上演300周年記念公演（県大型予算受託）」記念誌の校了と諸々の準備を整え、10月30日、首里城の消灯を拝まず帰宅しました。首里城焼失のニュースを受けたのは、その数時間後でした。何故首里城は焼失したのか。消沈する心を鼓舞しつつ、全学あげて周年行事に取り組み、かつ首里城再建の為の募金活動も行いました。

幾度も翻弄されてきた沖縄の歴史。その中心にあった首里城でしたが、先達の知恵と心で何度も復活を遂げてきました。そこには芸能や芸術の力がありません。

沖縄を象徴する首里城、沖縄の文化を象徴する琉球舞踊。筆者は「人はなぜ歌い舞うのか」

を問い続けてきました。「琉球の歴史に己の歴史を重ね、心華やぐ自立を生きる」「歌と踊りは心と心を繋ぐ愛の架け橋」をモットーに、琉球芸能の源流を探り、歴史の中で育まれてきた琉球舞踊の精神から何を受け継ぎ、何を新たに生み出し、そして何を次の世代に受け渡すのかを模索し続けてきました。

筆者は、文字記録の希薄な琉球芸能に対し、歌と踊りがつなぐ精神世界を実演家側から研究、アプローチし、書き記すことを本学における自身の課題としてきました。身体を通して伝承してきた琉球の歴史と文化を、この7年間で実演家自らの記録として、僅かながらも文字に残すことができたかと確信しております。

また、消滅の危機に瀕する琉球・沖縄文化の基層である「しまくとぅば（琉球語）」の普及方法も模索し続けて来ました。学生の言語実態を把握し、授業前の10分間で実践したその成果資料を基に『ウチナーグチ（沖縄語）練習テキスト』を編著しました。定年退職後は次世代へ沖縄語の普及にも努めたいと思います。

歴史の苦楽を学び、日常の苦楽を共に心豊かに過ごさせて下さった皆様との出会いに感謝し、その実演活動と記録を紙幅の許す範囲で諸本に残し卒業致します。

シディガフデービタン  
（ありがとうございました）

2022年3月吉日

# With Art 展

## パレットくもじ × 沖縄県立芸術大学



会期：2021年12月1日（水）～12月26日（日）  
会場：パレットくもじ  
主催：久茂地都市開発株式会社、沖縄県立芸術大学  
協力：デパートリウボウ  
助成：公益財団法人沖縄県立芸術大学芸術振興財団

「With Art - アートと共にある未来へ」展はパレットくもじの30周年記念企画として、パレットくもじを運営する久茂地都市開発株式会社と沖縄県立芸術大学の主催で開催しました。美術工芸学部の絵画専攻・彫刻専攻・芸術学専攻・デザイン専攻・工芸専攻より With Art 展実行委員会を立ち上げ、それぞれ特色のある展示テーマを企画立案し、所属する在学生たちがパレットくもじ各所にて展示発表会を行いました。



### ■絵画専攻「お散歩ギャラリー」

テナントをギャラリーに見立て、散歩をしながら作品に出逢えるウォークラリー式の展示。



■彫刻専攻「街と彫刻展-new generation-」  
テラコッタ作品を野外に設置し、地域に根差した芸術を発信。



写真：高野 大

■デザイン専攻「オキゲイドウガの30年」  
1階エントリーにおける液晶ディスプレイを中心にアニメーションおよび映像作品を上映。



■工芸専攻（専修）「コウゲイの俯瞰図」  
工芸専修の教育内容を周知するとともに、工芸の「これから」を体感できる場を提案。



## 世界を舞台に活躍 —ドイツ歌曲に魅せられて—

声楽専攻 5 期生 (1996 年卒業)

**国吉 典子**

初めまして。私は沖縄県立芸術大学卒業生の国吉典子と申します

現在、ドイツ南西シュトゥットガルト州立歌劇場の合唱団員として勤務し 22 年目を迎えました。

大学では目まぐるしい日々ではありましたが、色々なカリキュラムの中、少人数教育でオペラや演奏会を体験させてもらうことが出来、大変充実した学生生活でした。

在学中、演技や歌うことの難しさに直面し、歌手になることを諦めようとしていた時、ウーヴェ・ハイルマン先生に師事したことがきっかけで、ドイツ歌曲に魅了されていったのですが、南国育ちの私には春を待ち焦がれる歌詞が全く理解出来ませんでした。そのため、ドイツの音大に入って歌曲を学ぼうとしましたが、留学資金がなく、働くために受けた現在の歌劇場のオーディションに奇跡的に合格したため、学生と仕事の両立は諦めて働く事を選択しました。

そして 21 年はあっという間に過ぎ去り、ドイツの気候を体験できていますがドイツは 1 年中寒い……。でも、四季がはっきりしていて、自然の移り変わりの景色は素晴らしく、春になると信じられないくらい多くの花々が咲き始め、

その喜びは目にも身体にも生命を感じられる瞬間です。

沖縄の青い空、海、家族、友人、食べ物のどれもこれも恋しく、毎年 6 週間の夏休みには、帰郷し暑い沖縄を満喫していましたが、昨年はコロナ禍で帰れず、私のエネルギーは切れ気味です (泣)。でも、きっとこの夏は帰沖出来るでしょう。

最後に芸大生の皆さん、クラシック音楽を学ぶには是非旅行でもいいので、欧州に行ってください! ここから作品が生まれたのだと実感できます。まず思い切って世界を舞台に色々な体験をして欲しいと思います。



# 第32回琉球芸能定期公演

令和3年10月16日(土)  
沖縄県立芸術大学 奏楽堂



## 演目・演奏

- ・琉球古典音楽斉唱「かぎやで風節」「恩納節」「辺野喜節」
- ・琉球古典音楽独唱「本花風節」「散山節」
- ・琉球舞踊「江戸下り口説」「貫花」
- ・創作舞踊「風直り(一名 おなりのセテ)」
- ・組踊「万歳敵討」

# 第32回洋楽定期公演

令和3年10月2日(土)  
沖縄県立芸術大学 奏楽堂



## 演目・演奏

～沖縄から発信する現代の音楽～

- ・柴 佑: Rendo for Violin and Piano
  - ・油田 耀: Endless Cycle
  - ・金城 亜美: "If the doors open someday" for string quartet
  - ・江幡 侑奈: 《冬が来た》高村光太郎の詩による
  - ・杉山 湧生: 《線香花火》一弦楽四重奏のためのー
  - ・安元 奏: 《光の道》ーピアノとヴァイオリン、チェロのためのー (2020/2021年改訂)
  - ・土井 智恵子: HAJICHI BLUE (委嘱新作・世界初演)
- ※本演目は諸般の事情により演奏を見合わせました。
- ・塚本 一実: Increasing lights ~ for solo flute ~
  - ・ヤニス・クセナキス (1922-2001 / アニバーサリー作曲家没後 20年)  
Psappa pour Percussion Solo (1975)





# 収蔵品展

— 未公開作品を中心に —

附属図書・芸術資料館は、1994年の開館以来、絵画、彫刻、デザイン、染織、陶芸、漆芸など幅広いジャンルで作品を収蔵し、毎年さまざまな展覧会を開催してきました。

本展では、当館収蔵品の中から名渡山愛順（1906-1970）、大嶺政寛（1910-1987）、具志堅聖児（1908-1998）ら県出身の物故作家の絵画や、稲垣稔次郎（1902-1963）の染織、島袋常秀（1948-）の陶芸、19世紀に製作された漆芸など、これまで紹介する機会がなかった未公開作品を中心に展示しました。

約20年ぶりの「収蔵品展」でしたが、コロナ禍が続く中での開催となり、鑑賞者は学内者および展覧会関係者のみに限られた展観となりました。来場者は13日間（10月22日—11月3日）の会期で260人。例年にない閑散とした会場の雰囲気が見られましたが、来館者からは概ね好評を得ました。





## 移動大学 in 伊平屋島



芸術文化研究所は、令和3年12月19日（日）、伊平屋島で移動大学を実施しました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響により、伊平屋島の子供達向けにオンライン移動大学を開催しました。今年度は、軽石の影響による船の欠航も心配されましたが、無事に5つの教室を開催することが出来ました。紅型、陶芸、写真、琉球舞踊、空手の各教室に、計43名の子供達が参加しました。参加した子供達からは、「ふだんやらないことをするのがいっぱいでもずかしかったけど、楽しかった」、「また来て欲しい」などの声が寄せられました。

### 令和3年度 社会連携事業

## 沖縄県立芸術大学 × デパートリウボウ 第2回サマーアートフェスティバル 展示販売会&コンサート

開催期間：令和3年8月18日（水）～21日（土）

※コロナの影響により8月21日（土）は中止となりました。

開催場所：パレット久茂地 1階 正面玄関

2階 楽園 Café（音楽学部）

6階 イベントホール（美術工芸学部）

沖縄県立芸術大学とデパートリウボウによる第2回サマーアートフェスティバルは徹底したコロナ感染対策を実施し、美術工芸学部の各学科・各専攻から、学生や卒業生が制作した絵画、イラスト、彫刻、染織物、陶器、漆工芸品その他多くの作品を展示し、販売しました。

また、音楽学部から琉球古典音楽、ホルンアンサンブル、クラリネットアンサンブル、フルートアンサンブル、木管五重奏及び琉球舞踊の演奏等が行われました。



### 【絵画】

湖城 磨李奈(修士2年)「第33回卒業・修了作品展」デパートリウボウ賞

上江洲 仁美(修士1年)「第33回卒業・修了作品展」北中城村長賞

### 【彫刻】

野田 竜也(学部4年)「第33回卒業・修了作品展」北中城村文化協会賞

村松 優実花(修士2年)「第33回卒業・修了作品展」沖縄県立博物館・美術館長賞

### 【芸術学】

長嶺 勝磨(博士課程) 第24回全国ふるさと漢詩コンテスト 優秀賞

### 【デザイン】

大嶺 芽伊(学部3年) ザ・リッツ・カールトン沖縄10周年記念イベントマークの公募 最優秀賞

根間 笑花(学部3年) 沖縄デジタル映像祭 最優秀賞

姚 旗偉(修士1年) 第73回沖展 グラフィックデザイン部門 奨励賞

### 【工芸】

#### <染分野>

根路銘 まり(修士2年)「CYCLE展 ―創造するエネルギー 2021― 第5回 沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科展 at OIST」最優秀賞

島尻 雅(修士1年) りゅうぎん紅型公募展 奨励賞

#### <織分野>

新井田 桜子(修士2年) 第75回新匠工芸会展 入選

#### <陶芸分野>

鈴木 まこと(後期博士課程2年) 第50回 沖縄県芸術文化祭【美術部門】 沖縄県文化振興会理事長賞

#### <漆芸分野>

宮平 京弥(学部4年)「第33回卒業・修了作品展」沖縄美ら島財団理事長賞

### 【山本正男賞】

根路銘 まり(生活造形専攻) 葉 詩蘊(生活造形専攻)

### 【西銘順治賞】

喜納 祥子(絵画専攻) 金城 仁葉(芸術学専攻) 石川 プリンセスエベル ジュニア(デザイン専攻) 又吉 絃士(工芸専攻)

### 【令和3年度科学研究費補助金・学術研究助成基金採択】

林 裕 チェロの力学 ～エンドピンと弓に着目して～

鈴木 耕太 組踊台本の基礎的研究

麻生 伸一 首里・首里城の儀礼に関する基礎的研究

山本 正昭 琉球列島の築城技術にみる土木史的研究

前田 勇樹 明治期の新聞資料にみる琉球沖縄関連記事の研究

【音楽表現専攻・演奏芸術専攻】 ※一部抜粋（全受賞者情報はホームページに掲載）

<ピアノコース・ピアノ専修>

高江洲 愛琴（1年） 第6回ダヌビア・タレント国際音楽コンクール ピアノ部門D カテゴリー 第2位  
トバイアス・マテイ記念ピアノコンクール 大学生部門 第2位

仲宗根 和志（1年） 2022 SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 全国大会 第5位入賞

松本 陽佳里（1年） ビティナピアノコンペティション 全国決勝大会 連弾上級部門 ベスト8賞

比嘉 音芽（3年） 第54回新報音楽コンクールピアノ部門一般の部 第1位入賞

第15回ペーテン音楽コンクール九州地区本選 大学・大学院生の部 最優秀賞

第13回九州ピアノオーディション専門部門 グランプリ及び福岡市長賞

第14回全日本ピアノオーディション 専門Special部門 銅賞

北津留 美月（4年） 第12回日本パッサコンクール 福岡地区大会 金賞

木和田 秋穂（大学院2年） 第31回ブルクハルト国際音楽コンクールピアノ部門 奨励賞

<弦楽コース>

森川 千冬（ヴァイオリン・3年） 第3回日本奏楽コンクール 弦楽器部門 審査員奨励賞

<管打楽コース・管弦打楽専修>

宮里 凜花（マリンバ・3年） 第31回日本クラシック音楽コンクール 打楽器部門大学の部 全国大会出場

武 愛梨（ホルン・3年） 第31回日本クラシック音楽コンクール全国大会、ホルン部門大学の部、第4位（1～3位無し）

長谷川 早紀（マリンバ・大学院1年） 第54回新報音楽コンクール 管打部門一般の部 第1位

【琉球芸能専攻】 ※一部抜粋

《2021年度沖縄タイムス伝統芸能選考会》

<笛部門 最高賞> 新垣 勝裕（大学院2年）

<舞踊部門 最高賞> 砂川 博仁（3年） 稲福 詩織（1年） 森山 和人（1年） 森山 康人（1年）

《第55回琉球新報琉球古典芸能コンクール》

<三線部門 最高賞> 三刀屋 美鈴（4年）

<舞踊部門 最高賞> 國場 海里（3年） 堀川 裕貴（3年） 嘉数 千李（2年） 田島 吟（2年）

<三線部門 優秀賞> 加屋本 真土（大学院1年） 天下 善博（3年） 大城 希里（3年） 津波古 孝太（3年） 名嘉真 蒼織（2年）  
丹羽 亜希子（2年） 親田 鈴（1年）

<笛部門 優秀賞> 住田 千裕（2年）

<胡弓部門 優秀賞> 唐木 麻子（大学院1年）

【芸術文化学研究科】

石橋 佐紀子（博士課程）「組踊研究史の再考—おもに組踊と大和芸能の比較研究について—」『ムーサ 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』  
第23号掲載

【山本正男賞】

林 杏佳（舞台芸術専攻） 林 奏歩（演奏芸術専攻） 鈴木 杜萌（音楽学専攻） 山本 佳穂（音楽学専攻） 茂木 仁史（芸術文化学専攻）

【西銘順治賞】

宮城 勇佑（音楽表現専攻） 三刀屋 美鈴（琉球芸能専攻）

【文化庁・令和3年度大学における文化芸術推進事業採択】

向井大策「今を生きる人々と育む地域芸能の未来

—「保存」から「持続可能性」への転換を志向する場の形成と人材育成—

（ホームページ <https://www.chiikigeinou.com/>）



「地域芸能と歩む」HP

## 開鐘 (KE-JOU)

開鐘とは、明け六つの開静鐘の優雅な音にたとえられた三線の尊称です。

沖縄県立芸術大学も開鐘のように

遥か彼方まで鳴り響き、

世界に向かって飛躍する拠点となる事を願い、

広報誌を「開鐘」と名付けました。

沖縄県立芸術大学 広報委員会

第24号 2022年5月15日発行



表紙イラスト

「花姿」

葉 詩蘊



公立大学法人

沖縄県立芸術大学

OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS